幟用ポール取扱説明書

このポールを正しくお使いいただく為、ご使用の前にこの取扱説明書を良くお読み下さい。

ポールを立てるときの御注意

「ポールが電線に触れると危険、立てる場所、たて方に気を付けて下さい」

市街地の電柱には高圧線が通っております。
この高圧線にポール及び幟が触れると感電の危険があります。
ポールをお立てになる時にはまず周囲を十分確かめて家屋や樹木との距離をできるだけとり、ポールが傾いたとき、幟が舞い上がったときにも電線に絶対触れない位置に立てて下さい。
やむをえず電線のそばに立てるときは事前に最寄りの電力会社に連絡し、ポールが万一電線に触れたり幟等が電線に絡んだときは絶対にポールに触れず、ただちに電力会社に連絡して下さい。
組み立ては必ず大人の方がスベリ止め付きの軍手等をして行って下さい。(二人以上で)
組み立て中に、万一ポールが倒れた場合を考え周囲の安全をご確認の上組み立てを始めて下さい。
地面の軟らかい場所は避けて下さい。

※このポールは風速10m／秒以下を基準にしており木材(丸太)よりは弱く折れやすいので風が強くなりそうなときは、幟を下ろしポールを縮めて下さい。

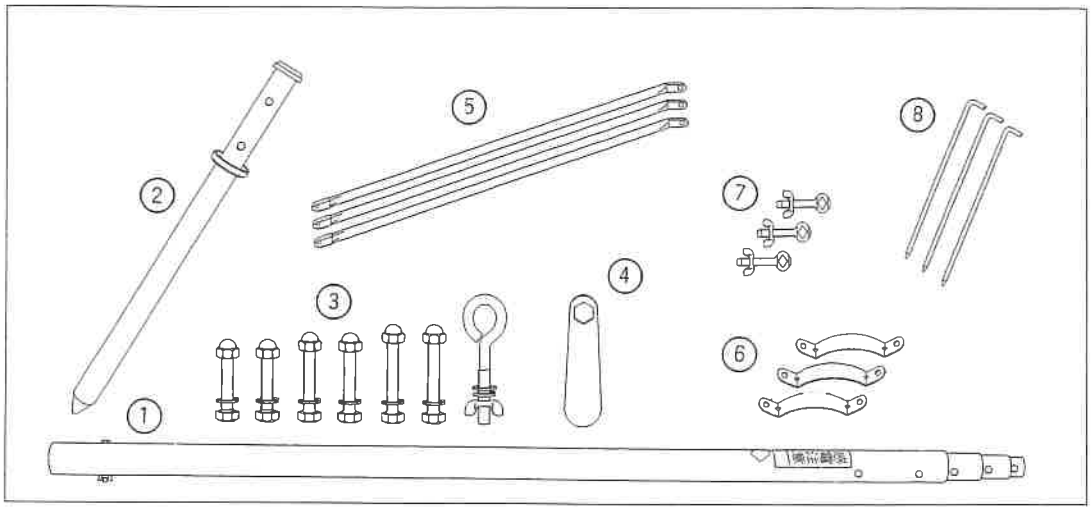
8.0 ～ 10.8 未満	 水面に波がしらがたち、葉のあるかん木がゆれはじめる	10.8 ～ 13.9 未満	 電線が鳴る．かさがさしにくい．大枝が動く

◆使用基準◆

ポール	武者幟
幟 － 8号	3 間 ま で
幟 － 10号	4 間 ま で
幟 － 12号	5 間 ま で
幟 － 14号	6 間 ま で

◎使用基準は地面に立てた場合ですので厳守して下さい。尚基準をこえた使用及び地上面以外(建物の屋上等)の設置による事故等に関しては一切責任を持ちません。
◎雨天時降雨直後及び強風時には、ポールの組立て及び解体を行なわないで下さい。
◎ポール使用後は速やかに解体して保管して下さい。

部 品 名 称



①　ポール　1本　　②　打込杭　1本　　③　ボルト類（フックボルト　1本と
ポールにセットされている1本を含む）
8号－8本　　10号－10本　　12号－12本　　14号－14本

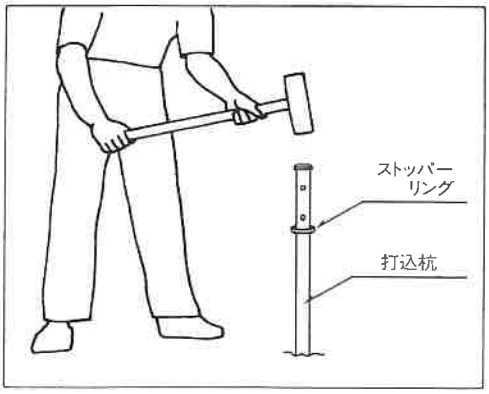
④スパナ　1個　⑤ステーパイプ　3本　⑥ステーバンド　3個　⑦ツマミボルト　3個　⑧サブパイル　3本

幟用ポール設置方法

最初に脚立又は踏台等と大ハンマー等を御用意下さい。

設置を始める前に幟掲揚装置を組立てておいて下さい。

①　打込杭を立てる

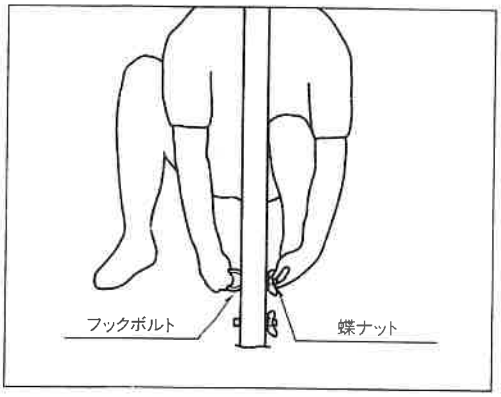


打込杭を大ハンマー等でストッパーリング近くまで、できるだけまっすぐに打込んで下さい。

※地面が固く大ハンマー等で打ち込み困難な場合はシャベル等であらかじめ穴を少し掘ってから打ち込んで下さい。

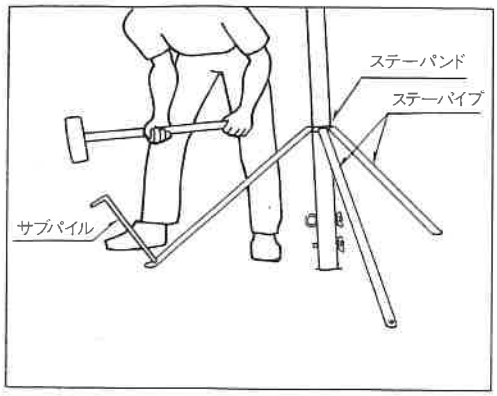
逆に地面が軟かすぎて打ち込んだ杭がぐらつく場合は木材等を打込杭のまわりに打ち込み補強して下さい。

②　ポールを立てる



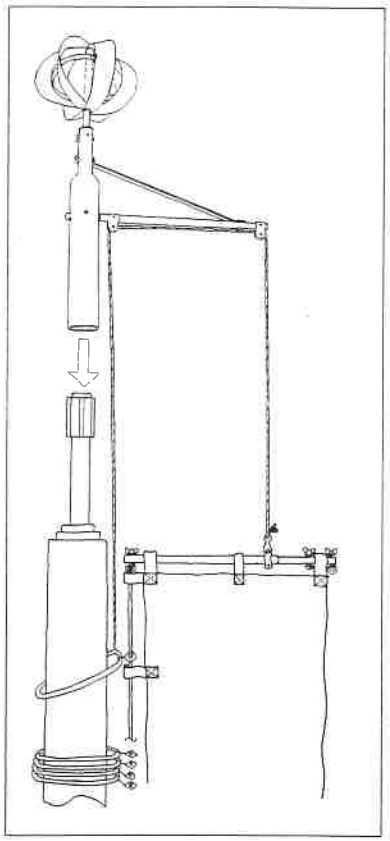
縮めたままのポールを静かに立てて打込杭にかぶせて、孔を合わせ上孔にフックボルトを下孔にポールにセットされていた六角ボルトを差し込み蝶ナットでしっかりと締付けて下さい。

③ ステーパイプを取付ける



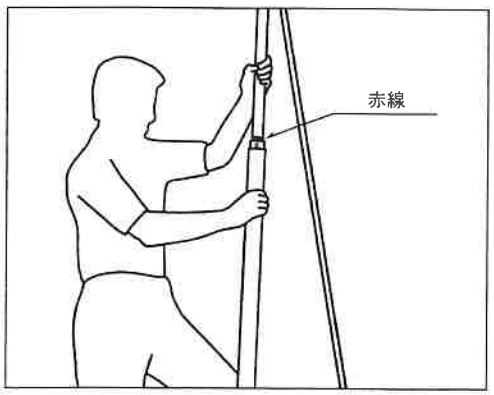
- 3本のステーパイプをステーバンドを用いて太管に取り付けて下さい。(同封のツマミボルトと蝶ナットを使用して下さい。)
- ステーパイプを等角度にひらき、地面との角度が45度位になるようにステーバンドの位置を調節します。ツマミボルトと蝶ナットをしっかりと締め付けて下さい。
- ステーパイプの先端の孔にサブパイルを差し込み、打込杭の方にむけてななめに打ち込んで下さい。この時打込杭が少しかたむいている場合は、このサブパイル杭の打ち込み作業で調整し出来るだけまっすぐに直して下さい。

④ 幟用リングと幟掲揚装置をポールに取付ける。



(脚立や踏台等にあがって行って下さい。)
リングを全部ポールに入れておいて下さい。
幟掲揚装置を取り付けて下さい。
(幟掲揚装置の説明書をお読み下さい。)

⑤ ポールを伸ばす



幟掲揚装置がセットされている上部細管を上にゆっくり伸ばし第2管の孔より赤い線が見えたらただちに引き伸ばしを中止し、あらためて赤い線が第2管の上端からわずかに出る所まで引き伸ばし、その位置で細管を左右に回して孔を合わせボルトを差し込みナットで固定して下さい。(同封してあるスパナをご使用下さい。)
次に第2管を10㎝位引き伸ばしもう1つの孔にボルトを差し込みナットで固定して下さい。以下順次同様に行って下さい。
⚠ ポールには抜け止めがありませんので引き伸ばし時に抜けてしまう危険がありますので十分ご注意下さい。

⑥ 収 納 す る

幟をおろします。

ポールを下段から組立てと逆の順序で縮めていきます。

⚠ この時、ポールとポールのすきまに指先などをはさまない様十分ご注意下さい。

打込杭はなるべく地面から抜いて収納して下さい。（ボルトを通す孔にサブパイル等を差し込んで回しながら抜くと容易に抜ける場合があります。）抜くのが困難な時は地上に出ている部分に油を塗布してビニール等をかけておいて下さい。

金属製の部品はよごれを取り乾いた布等でよくふき、油を塗布して保管して下さい。